

藤田浩子の 少し昔のこと 〈98〉

イナゴ ①

イナゴ（蝗）という昆虫をご存じでしょうか。夏から秋にかけて田んぼや野原にいる、田んぼを荒らす害虫です。私は好きではありませんが、秋になると大手デパート地下の食糧品売り場で佃煮にしたイナゴを売っていて、結構いい値がついています。

私が初めてイナゴ捕りをしたのは、小学校6年のときです。担任の先生の思い付きか、学校としての行事だったのか、いまとなってはわかりませんが、とにかく「明日はイナゴ捕りに行くからイナゴを入れる袋を持ってこい」と言われました。体育の授業でドッジボールという遊びをするから、そのボールを買うために、イナゴを捕ってそれを佃煮屋に売ってお金にするという計画だったらしいのです。母は紐付きの布袋を出してくれました。



翌日その袋を持って、どなたの家の田んぼかわかりませんが、とにかくたんぼに行ってイナゴとり開始。地元の子どもたちは、自分の家の田んぼで、しょっちゅう捕っているからでしょう、捕まえ方もとても上手ですし、そもそも持ってきた袋が違いました。新聞紙2枚を糊で貼って袋にし、その口には竹筒が差し込んであって、その竹を紐でキュッとしばってありました。捕っては入れ、捕っては入れ、イナゴは出られませんから袋はどんどんふくらんでいきます。袋がいっぱいになると竹筒の下を紐でキュッとしばって一袋できあがり、また新しい紙袋に竹筒を差し込んで紐でしばり、捕っては入れ捕っては入れ…。私はといえば、イナゴを捕って、布の袋に入れるのですが、もたもたしていると、1匹捕っても、袋に入れるときに、前に捕ったイナゴが2匹も3匹も逃げてしまう、というわけで、なかなかたまりません。親切な友達が見るに見かねて筒のついた袋をひとつくれたので、なんとか1袋はできましたが、なんとも情けない1日でした。

リレー連載 <231>

わたしの大好きな絵本

ななえ（ベリーズ）

できないのにできると言ってしまう後悔することは、誰にでもあることです。この本は、大人でもハッとさせられることがたくさんありました。

つい見栄を張ってしまい、自分は『へなちょこ』だと泣いて訴えるともちゃん。

「ほんまのへなちょこは、えらそうにいうだけで、がんばらんのやで」と言ってあげられるあいちゃん。

自分の苦手を認めて頑張ろうとするとともちゃんも、相手を思いやれるあいちゃんも、すごいなあと思います。そんな強さと優しさを持ってほしいと願いを込めて、5歳児に読み聞かせをしていました。

『へなちょこ』

作：くすのき しげのり

絵：ふるしょう ようこ

出版社：Gakken

自分の苦手なことを認めて、努力することは簡単ではないです。でもそれをできるようになると、ひと回り大きくなれる気がしませんか？

自己肯定感を高めるきっかけになったらいいなと思う一冊です。

姉妹本「ええところ」「ひとりぼっち」もオススメです。

